



# 豊中の ヒメボタル



豊中市・ヒメボタル保護者会

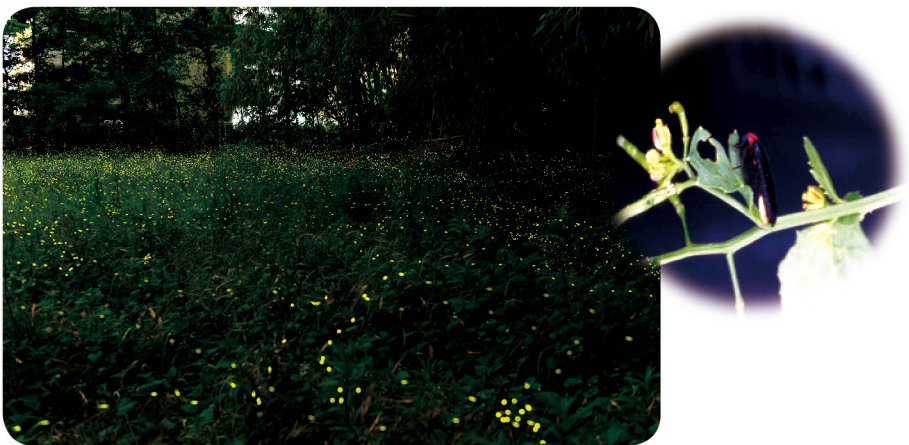
# ★ ★ ★ ★ ★ はじめに… ★ ★ ★ ★ ★

みなさんは豊中にホタルが生息していることをご存知でしょうか。

近年、開発などの環境整備が進み、人間の生活が豊かになっていく一方で、自然はどんどん減少し、自然環境の破壊、生態系の乱れが懸念されています。豊中市でも同じようなことが心配されていますが、このような環境の中で、豊中市春日町の一部の草地や竹やぶ（11ページ参照）には、「ヒメボタル」という希少なホタルが生息しています。

この冊子では、豊中に生息するヒメボタルの生態や成長の過程、生息場所や生息している数、また、この希少なヒメボタルを守るために保全活動を行っている「ヒメボタル保護者会」の活動についての紹介をしています。

この冊子を読んでいただいたみなさんが、豊中のヒメボタルについて興味を持っていただくとともに、開発などによって多くの生き物が減少していく、この現代のあり方について少し考えていただき、いま一度、自然環境を守っていくことの大切さを認識していただければ幸いです。



# ヒメボタルってどんな虫？

## ヒメボタルは希少な昆虫です

ヒメボタルは、4県で絶滅危惧種、大阪府を含む8府県で準絶滅危惧種に指定されている希少なホタルです。

## ヒメボタルは陸に住んでいます

ヒメボタルは、幼虫期を含む生涯を森や湿地などの陸の上で過ごします。幼虫は陸生の貝を食べて育ちます。

## ヒメボタルは光ります

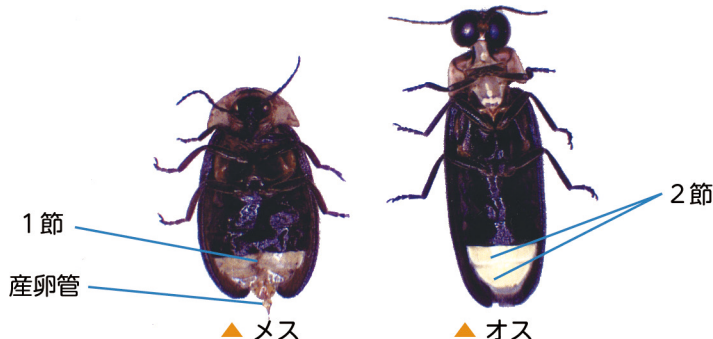
豊中のヒメボタルは、毎年4月末～6月末頃に光ります。おしりの部分(腹部の後方)が光り、その光は黄色で、パツパツパツとカメラのフラッシュ光のように光ります。(1分間に60回以上)

ヒメボタルが光る理由は、オスとメスが出会うためと考えられており、ルシフェリンと呼ばれる発光物質が化学反応をおこし、ほとんど熱を出さずに光ります。

## オスとメスの違い

メスは1節、オスは2節、光るところがあり、メスは後ろ羽根が退化しているので飛ばません。そのため、オスはあまり高く飛ぶことはありません。

一般的にホタルはオスよりメスの方が大きいことが多いのですが、ヒメボタルのオスはメスより大きく、メスに比べて目が大きいのが特徴です。





# ヒメボタルの成長のようす

ヒメボタルは卵生で一度に50～100個の卵を生み、20～30日程度で孵化（ふか：卵からかえること）したあと幼虫になり、1年または2年かけてさなぎになり、2～4週間で羽化して成虫になります。このような過程を経て、きれいに光る立派な成虫となります。成虫の期間は5～10日で、この間に相手を見つけて子孫を残します。



▲ 卵



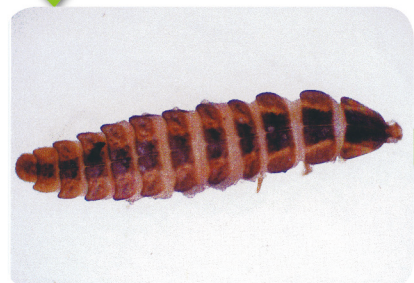
▲ 生まれた直後



▲ 幼虫が巻き貝を捕食



▲ 一令幼虫



▲ 二令幼虫



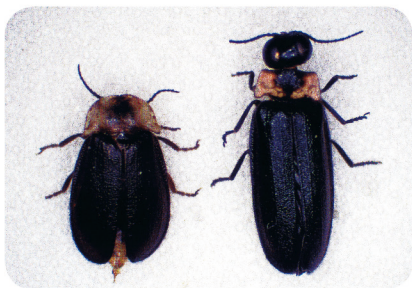
▲ 光っている幼虫



# ヒメボタルの1年間



ヒメボタルは一生のほとんどの時期を幼虫で過ごします。1年かけて羽化して成虫になり、約1週間でその短い一生を終えます。(2年以上幼虫のままの過ごすこともあります。)



▲ 成虫



▲ 交尾のようす



▲ 羽化した直後の成虫



▲ 光っているさなぎ






▲ 終令幼虫



▲ さなぎ

# ゲンジボタルや ヘイケボタルとの違い

ヒメボタルは、ゲンジボタルやヘイケボタルと比べ、住んでいるところ、大きさ、前胸部の模様、光り方などに違いがあります。

	ヒメボタル	ゲンジボタル	ヘイケボタル
産卵	土の上や落葉などに産卵する。	水辺のコケなどに産卵する。	水辺のコケなどに産卵する。
大きさ と 前胸部の 模様	黒の逆三角形の紋	黒の十文字	黒の一文字 (太い縦線)
			
	6～9 mm	12～17 mm	7～10 mm
光り方	黄色い光で、パツパツとカメラのフラッシュ光のように光る。(1分間に60回以上)	黄緑色の光で、スーッと尾を引くように1秒以上光る。	ゲンジボタルと同じように光るが、ゲンジボタルより弱い光で、光る間隔や光る時間も短い。

## 豊中市の近隣に生息するそのほかのホタル

オバボタル



(高槻市・箕面市など)

ムネクリイロボタル



(高槻市・箕面市など)

クロマドボタル



(池田市・箕面市など)

カタモンミナミボタル



(箕面市など)

写真提供：八木 剛 (兵庫県立人と自然の博物館)  
川副 昭人 (元豊中ヒメボタルを守る会顧問)

# 豊中のヒメボタル

## ヒメボタルの発見から保全活動の開始まで

豊中に生息するヒメボタルは、昭和62年（1987年）に市内でのヒメボタルの生息情報が寄せられたことを契機に、平成2～3年にかけて大規模な生態調査を実施し、市内に13か所の生息地を確認しましたが、その後、開発などが進み、現在ではほとんどの生息地が消滅しています。

平成4年（1992年）に、その当時、市内最大規模の生息地であった春日町2丁目から3丁目にまたがる区域を「ヒメボタル保全区域」とし、区域内の土地所有者と市が「ヒメボタルの保全に係る協定書」を締結。また、同じ年に地域住民などで構成する「豊中ヒメボタルを守る会」が発足し、市との協働による保全活動やヒメボタルの発光（発生）数調査などが始まりました。



## 豊中のヒメボタルの特徴

ヒメボタルの中では大型のホタルで、出現する時間・時期が早いと言われています。



# ヒメボタル保護者会の活動

## ヒメボタル保護者会とは？

ヒメボタルを保全するために、豊中ヒメボタルを守る会、春日3丁目蛸会（地元自治会）、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21・自然部会、市の4者で構成する団体で平成14年度に発足しました。

### ヒメボタル保護者会

豊中ヒメボタルを守る会

春日3丁目蛸会

NPO 法人とよなか市民  
環境会議アジェンダ21

豊中市

## ヒメボタル保護者会の会議

自然環境啓発イベントや今後の保全活動などの内容を検討しています。



## ヒメボタルの発光（発生）数調査

豊中ヒメボタルを守る会は、ヒメボタルの個体数の把握と経年変化を知るために、平成7年（1995年）から、毎年4～6月頃のヒメボタルが光る時期に、発光（発生）数の調査を実施しています（発光数調査の状況は10ページ参照）。

# ヒメボタル保護者会の活動 (生息地の保全)

## ヒメボタルのエサの育成

ヒメボタルの幼虫のエサとなるオカチョウジガイなどの陸生の巻き貝を育て、生息地に放しています。



▲ 網をかぶせた育成場所のプランター



▲ 育成した巻き貝

## ヒメボタル保全区域の管理作業

ヒメボタルを保全するために、生態に配慮した竹間伐や草刈り、剪定枝チップ・落葉の敷設作業などを行っています。



▲ 竹間伐

▼ 草刈り





# ヒメボタル保護者会の活動 (自然環境啓発)

ヒメボタル学習会・観察会 (毎年5月中旬～6月上旬に開催、詳細は広報5月号にて掲載)

豊中のヒメボタルのことをより多くの人に知ってもらい、自然の素晴らしさを感じてもらうため、ヒメボタルに関する学習会と現地観察会を実施しています。



## 小学校等での講座

ヒメボタルの生態や保全活動、生息地の環境などをテーマに、小学校等へ出向いての講座を実施しています。

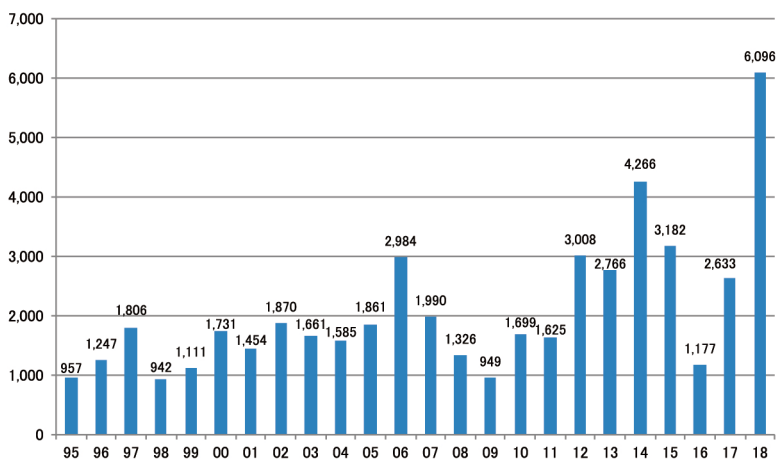




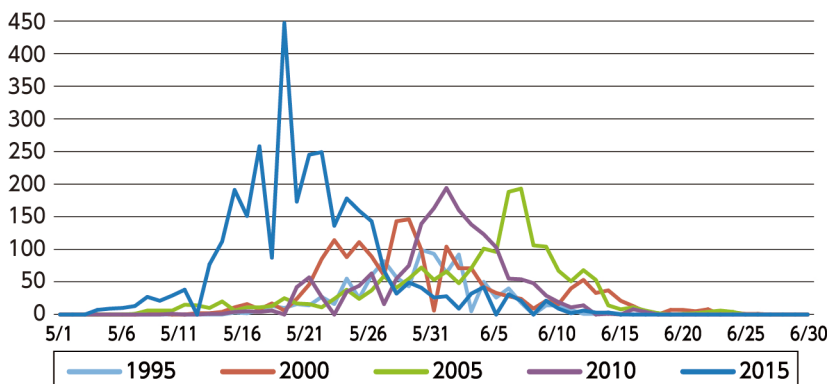
# 豊中のヒメボタルの 発光（発生）状況

都市化の影響により、保全区域のヒメボタルの発光（発生）数は減少傾向にありましたが、ここ数年は、保全活動などの成果もあり、その数を維持することができています。

## ヒメボタル発光（発生）数 経年変化グラフ



## ヒメボタル発光数の日割変化



※ 4月末から6月末まで（約2ヶ月間）毎日同じ時間にあらかじめ設定しておいた同じルートで行う、ルートセンサス法により調査

# 豊中のヒメボタル生息地の保全

## 春日町ヒメボタル特別緑地保全地区

豊中市では、市街化が進むにつれ希少な種であるヒメボタルの絶滅が危惧される中、ヒメボタルが生息する良好な自然環境を守るため、平成28年（2016年）2月29日、生息地となっている春日町2丁目・3丁目の草地など約1haを都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」に指定しました。

これまでも土地所有者の理解、協力を得ながらヒメボタルの保全活動を行ってきましたが、持続的な保全を図るため、建築等の行為の制限を行うことができる同制度を適用することとしました。

地区の名称は、地域と保全する対象がわかりやすい「地域名＋生物名」とし、希少なヒメボタルの生息地として適正な保全を行っている同地の情報発信を充実させることにより、多くの人にこの活動への理解を深めていただくとともに、観察に訪れてもらいたいと考えています。

### 名称 春日町ヒメボタル特別緑地保全地区



# 春日町ヒメボタル 特別緑地保全地区

平成30年（2018年）に同地の整備を行い、現地までの案内板や、地区内に豊中のヒメボタルのことがわかる解説板などを設置し、ヒメボタルが飛ぶ時期以外にもお越しいただいたみなさんにヒメボタルのことを知ってもらえるようになりました。



## アクセス



## ★阪急バスで

○春日町2丁目、春日町4丁目、野畑小学校前  
それぞれから徒歩約  
10分弱です。

周辺2か所に  
案内板があり  
ます。





## ★ ★ ★ ★ ★ おわりに… ★ ★ ★ ★ ★

ホタルは日本だけでなく世界中に生息しており、その数はおよそ2000種と言われています。そのうち、日本には40種以上のホタルが住んでいると言われており、そのほとんどがヒメボタルと同じ生涯を陸の上で過ごすホタルです。

ヒメボタルが注目されるようになってからの歴史はまだ浅く、まだまだ謎だらけですが、最近ではヒメボタルの生息地も全国で多く確認され、生態も明らかにされつつあります。各地の保全活動をしている団体とも連携を取りながら、今後も継続して、ヒメボタルの生息環境を守っていかねばなりません。また、それらを通じて、自然がもたらす恵みなど、自然の大切さを後世の世代に伝えていくことが、今日の命題となっています。

わたしたちは、これらのことを肝に銘じながら生活していく必要があると言えるでしょう。





## ヒメボタル保全活動の参加者を募集しています

ヒメボタル保護者会では、ヒメボタルとその生息地を守る活動や発光数調査など、いっしょに保全活動をしていただける方を募集しています。

保全活動に興味がある方、参加していただける方は、下記までご連絡ください。

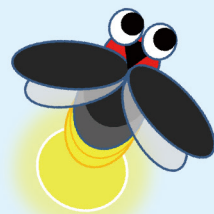
<問合せ先>

豊中市環境部公園みどり推進課 緑化自然環境係

電話 06-6843-4141

FAX 06-6845-5813

メール [kouen@city.toyonaka.osaka.jp](mailto:kouen@city.toyonaka.osaka.jp)





豊中のヒメボタル 令和元年 5 月発行